

湖沼等水質浄化技術分野の進捗状況及び来年度の方針について

1. 平成21年度の事業報告

(1) ワーキンググループ（WG）開催経緯等

平成21年7月9日 第1回WG開催（平成21年度実証機関の選定審査）

平成22年3月2日 第2回WG開催（実証技術の実証計画と進捗状況の報告・審議、
平成22年度実証機関の選定審査）

（WG検討員名簿は別紙参照）

(2) 実証試験状況等

実証機関：社団法人埼玉県環境検査技術協会

（実証対象技術）

- ①廃タイヤなどのリサイクル材料を用いた「グリーン生物浮島」と「GBC 材料」による水質浄化及び汚泥分解システム

2. 来年度の方針

〔課題〕

- ①平成18年度8技術に対して平成21年度は1技術等にみられるように、実証技術の数が減少していること。
- ②実証済のメーカーから、苦勞して実証を実施しても、技術の普及に繋がらないとの不満の声があがっている。

〔改善策〕

- ①実証技術の数の減少については、環境省、運営機関、実証機関が実証技術の宣伝等、企業の募集の働きかけを推進するとともに、水質浄化だけでなく、例えば、景観の向上等の対象とする技術の範囲拡大を検討して、実証技術の数の増加をはかる。
- ②実証技術の普及については、実証済技術の実績の整理を行うとともに、浄化場所に合致し十分に浄化効果が機能させることを目的とした技術の選定フローや過去の実証技術のカタログを整理し、公表していく。

<今後の予定>

○実証運営機関の公募（3月）

平成21年度環境技術実証モデル事業検討会

湖沼等水質浄化技術ワーキンググループ 検討員名簿

岡田	光正	広島大学大学院工学研究科	教授
今井	剛	山口大学大学院理工学研究科	教授
福島	武彦	筑波大学生命環境科学研究科	教授
島谷	幸宏	九州大学大学院工学研究院	教授
秋葉	道宏	国立保健医療科学院水道工学部	部長